

## 『 開校 10 年に寄せて 』

熊本県立熊本かがやきの森支援学校校長  
富永佐世子



新緑が目には鮮やかな今日の佳き日に、熊本県議会副議長高木健次様、熊本県教育委員会県立学校教育局長重岡忠希様、県議会並びに県教育委員会の皆様方、そして歴代の校長先生をはじめ関係機関、地域の皆様方など、多くの御来賓の御臨席を賜り、開校10年の記念式典を挙げることは、本校児童生徒、保護者、職員にとりまして、このうえない喜びであり、関係の皆様にも心より感謝申し上げます。

さて本校は、平成23年5月に策定された「県立特別支援学校整備計画」に基づいて、熊本支援学校から分離独立し、平成26年4月に開校しました。重度重複障がいのある児童生徒を対象に、安全安心な教育環境の下で、持てる力を精一杯に伸ばしてほしいという願いを込めて設置された学校です。本校舎通学の小学部・中学部・高等部と自宅へ教師が出向いて授業を行う訪問教育、くまもと江津湖療育医療センター入所者を対象とした分教室在籍者を合わせると、現在85人の児童生徒が在籍しています。

本校舎は、体育館を含め全棟冷暖房完備で温水プールや図書館、プレイルーム、教材製作室等を備えており、児童生徒は木のぬくもりに包まれた快適な校舎の中でのびのびと学校生活を楽しみ、意欲的に学習活動に取り組んでいます。

また、平成28年の熊本地震では、校舎が震度7にも耐える構造であったため、地震による被害を最小限に止め、臨時避難所として沢山の地域の皆様と児童生徒家族等を約2週間に亘って受け入れました。その際、地域の皆様から、「この学校がこの地にあって良かった。」との感想が寄せられたことは、当時の教頭であった私にとって、正に地域に根差した学校の具現化が図られた出来事として、今も鮮明に記憶しています。

さて、本校は開校以来二つの事柄を教育目標として掲げ取り組んできました。

一つは、安全安心な教育環境づくりです。本校には医療的ケアの実施など健康上配慮を要する児童生徒がたくさん学んでいます。開校当初から、救急搬送など緊急時の対応について病院や消防署と連携を図るとともに、県医療的ケア児支援センター小篠医師の御助言等をいただきながら、本校独自の緊急時対応システムを構築し、日々シミュレーション訓練を行いながらその充実を図って

います。

もう一つは、持てる力を精一杯伸ばす教育実践です。近年導入された GIGA スクール構想においては、ICT 機器の活用が肢体不自由教育においても効果的なツールとして活用が促進されています。昨年度から熊本高等専門学校と連携しワークショップや技術相談会を通し、ICT 機器を活用した教育実践を繰り広げています。また、その実践は国立特別支援教育総合研究所の研究協力機関校として実践事例を報告し、全国へ ICT 機器活用を促進するための一翼を担った取り組みを行っています。

開校 10 年のこの佳き日を節目として、校訓である「かがやく笑顔 学ぶ感動 つながる喜び 明日への生きがい」を児童生徒が日々抱けるよう、そして、保護者の願いにこれまで以上に応えられるよう、職員一同力を合わせて努力して参ります。

最後になりましたが、本日御臨席を賜りました御来賓の皆様をはじめ、本校を支えていただいた県教育委員会、そして関係する全ての皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御指導と御支援をお願いいたします。

令和 6 年 5 月 1 8 日

熊本県立熊本かがやきの森支援学校長  
富永佐世子

